

クアラルンプール日本人学校における 職場体験学習を中心としたキャリア教育実践

—— 生徒の将来の自己実現に向けた進路学習の充実をめざして ——

前クアラルンプール日本人学校 教諭

静岡県富士市立富士見台小学校 教諭 高田 直樹

キーワード：総合的な学習の時間、キャリア教育、進路学習、職場体験、教師の連携

1. はじめに

マレーシアは西マレーシアと東マレーシアの計13州で成り立ち、マレー系、中国系、インド系を中心として構成されている多民族国家で、首都クアラルンプールは、緑や自然に包まれた人口約150万人の大都市である。

また、日本人学校は約50年前に世界で5番目に設立された。東京ドーム2つ分の敷地に幼稚部、小学部、中学部の校舎、校庭、プールも50m、25mの2つからなる大規模な学校である。

そのクアラルンプール日本人学校に3年間勤務し充実した設備と環境のもと、中学2年生の学年主任として赴任3年目に実践した総合的な学習の時間におけるキャリア教育について紹介したい。

2. 生徒の実態と進路学習の指導にあたって

(1) 生徒の実態と将来への意識

クアラルンプール日本人学校は小学部3学級、中学部2学級、計約750人の日本人学校の中でも大規模校の部類に入り、中学部は教科担任制をとっている。

私が3年間所属した中学部の学年教員構成は、各学級担任2人（学年主任を含む）に副担任2人の計4人で、担任を中心に学級活動や総合的な学習の時間、道徳の指導にあたる。

さて、中学3年生末まで日本人学校に在籍する日本人子女の多くは、秋口より私立系大学附属高校などの帰国生入試から始まり受験に臨む。受験数が5校以上にもなる生徒も少なくなく、ほとんどの生徒が2・3月の一般公立・私立高校入試を待たずして進路が決定する。入試は国・数・英の3教科型+面接の受験が多いため、帰国生入試を使って試験を受ける生徒の中には、「帰国入試だから必ず受かる。」「楽をしていい高校に入ろう。」「塾や親が言った高校に行けばいい。」という意識が見られる。

この傾向は中学部全体を見ても顕著で、将来のことや進路のことを漠然と考えている生徒が多く、教育相談をした際も今後自分がどうなりたいのか考えをはっきりと話せる生徒は少ない。

このような実態のもと中学2年生の時期に、生徒の将来の自己実現に向け、どのような力をつける必要があるのかを学年で話し合った。

(2) 将来の自己実現に向けた中学2年生でつける力と指導のねらい

私が赴任する5年前より、中学2年生では職場体験学習がスタートし、生徒の興味・関心に応じて行きたい体験先を選んでいった。しかしながら、外国ならではの不利な条件が存在し、学校の近くばかりに体験先があるわけではなかったり、教員やスタッフがバスで送り迎えをしなければならなかったりするなどの理由から、職場体験学習を1日しかとることができないのが現状であった。そのため、これまで生徒は、社会の一員として仕事をするという意義を理解できなかったり、仕事の成就感や達成感を味わえなかったりして、将来のことについて体験から学び、自己を見つめ直す機会にはつながっていないと感じた。

そこで、1日しか体験できない職場体験学習を有意義なものにし、この学習を通じて生徒が将来に向けて自分を見つめ直し、主体的に自己の進路を選択・決定できる力を育てたいと考え、次のような単元計画のもと学習を

学年全体で行っていくことにした。

時	2011・2012	内容・テーマ	ねらい・成果など
①	10/30	職業についての意識と職場体験	進路学習のねらいと予定を理解する。
②	10/31	中学生の職業観と就業の実態 (NEETについて考える)	現在の日本の就業問題を知り、自分の進路学習のスローガンを設定する。
③	11/1	進路を考える会(臨床心理士講演)	長所と短所、他者との関係についての気付きなどについて聞く
④	11/5	職業の選択(離職・転職)	自分で判断して職業選択する姿勢を養う。
⑤	11/6	働く人の話を聞く会 (本校事務長講話)	仕事をする上で大切なことについて話を聞き考える。
⑥	11/20	職場見学に向けて	見学の心構えとマナー、ホテルの仕事をを知る。
⑦	11/23 & 30	職 場 見 学	ホテルの仕事を視察し、働くことの意義を理解する。
⑧	12/12	職場体験に向けて	職場体験の目標を明確にし、自分に合った体験先を選択する。
⑨	12/14	自己紹介カード作成	自己をみつめ、アピールする能力を養う。
⑩ ⑪	1/15・16	職場体験事前準備	職場にふさわしい態度・礼儀を身につける。
⑫	1/17	職 場 体 験	体験を通して勤労の意義や尊さを学ぶ。
⑬～⑮	1/18・22・25	職場体験のまとめ	それぞれの職場で体験したことをまとめ、発表する。
⑯～	2月～	上 級 学 校 調 べ	中学卒業後の進路を具体的に考える。

3. 主な実践の紹介

(1) 学年教師の連携

担任2人だけでなく副担任も含めた学年教員、そして学年の生徒全員で同じねらい・内容のもと進路学習を進めていくことにした。全国から教員が集まる日本人学校は、教員のこれまでの生き方が日本の公立校以上に多種多様で、その地域の考え方やその地域独特の進路の特性もある。これらを生かし、指導計画上の第1・2時では、各教員のこれまでの生き方や体験を伝え、生徒たちに進路学習の意義を考えさせていった。

(2) 職場体験のための職場見学を実施

1日しかできない職場体験を有意義なものとするために、学校前にあるサウジャナホテルの協力のもと職場見学を行った。日本人スタッフが2名常駐し職場体験の話をするのと快く承諾して下さった。

実際にその職業におけるプロの姿を見せることによって、働くことの意義を自分なりに感じ取り、今後の職場体験に向けての態度や姿勢を養うことができるよう見学を行い、生徒からも好評であった。



実際にテーブルクロスを作っている生徒

生徒の感想 (一部抜粋)

今日の職場見学で、ホテルの広さに驚きました。部屋もすごくきれいでベッドメイキングをしていた人が無駄のない動きでほとんどしわがなくシーツを敷いているのを見て「すごい！」と思いました。また、ベルボーイさんに顔、名前、車のナンバーを全て憶えている人がいて、もっとすごいと感じました。従業員さんはみんなとてもニコニコしていたけれど、仕事はとてもテキパキとしていてお客さんに満足してもらう、お客さんのことを第一に考えていると今回の職場見学で働く人の目線になって考えてみることができました。

今日、見学させてもらった感謝を忘れず、今後の職場体験や進路学習につなげていきたいと思います。

(生徒A)

(3) 職場体験から

クアラルンプールは近年、新たな日本企業の進出も著しい。我々のニーズと生徒の実態を考えながら新しい職

職場体験先を開拓した。秋からの連絡・訪問を繰り返し、現地病院、現地保育園、日系スーパー・デパート・本屋、現地ペットショップ、日系・現地レストランなどの全18事業所（新規7社）の協力のもと、全56人の生徒一人一人を温かく受け入れてくださった。

中には、この職場体験をきっかけに将来の夢が明確になった生徒もいた。

1日のみの短い体験ではあったが、これまでの進路学習の過程が生かされたものとなり、生徒の振り返りからは、今の自分の見つめ直し、将来のことを真剣に考える姿が見えた。



日系レストランでの職場体験

生徒の感想（一部抜粋）

今日の職場体験で、お客さんのことを考えて衛生に気をつけたり、卵の扱い方に気をつけたりしてとても大変でした。そして、仕事では多くのものをいっぺんに作っていく大変さが分かりました。たくさんの卵に小麦粉と砂糖を入れるときに分量オーバーしないように計っていくのが特に大変でした。だけど、多くのことを学べて、一步パティシエに近づけたと思います。今後は職場体験で学んだことを今後の生活に生かしていきたいと思います。パティシエはすごく大変で難しいということが分かったけど、好きなものをやるのは楽しく感じます。それが仕事になったら嬉しいです。 (生徒B)

(4) 来年度の受験や今後の自分の在り方を意識した上級学校調べ

これまでの職場見学や職場体験で得た力を、来年度の受験やこれからの進路選択の土台とするため、単元の最後のまとめとして上級学校調べを行った。日本の公立中学校の生徒が、その地域でどのように進路を決定しているのかを知っている生徒は意外に少なかった。その実態を踏まえ、ここでも学年教員の体験談や地域（静岡県、東京都、大阪府、愛媛県）の実態を詳しく話しながら入試の仕組みを含め、中学校とは違った高校での学習面や生活面の変化について学ぶ機会をもった。その後、現時点での中学卒業後の進路についての考えを分析シートに記入したり、興味のある学校の特色を新聞にまとめたりしながら、自分の思いに沿ったより良い志望校を選択できるよう指導していった。

(5) その他の工夫

道徳では勤労観の育成に向けた資料を取り扱い、担任と副担任でチームティーチングを中心とした指導を行った。また、1年時に行った進路学習ファイルを2年時でもそのまま活用し、3年間に及ぶ進路学習の振り返りがいつでもできるよう継続して使った。

また、2年時でも1年時と同様、ゲストティーチャーを招いて仕事のやりがいについて話をしていただき、将来の進路選択に向けて大切にしたいことなどを講話から学習した。

4. 終わりに

クアラルンプール日本人学校での私の一番の財産はまさしく人とのつながりである。全国各地から集まる子どもたちを、全国各地から集まる教員が教育していくことの素晴らしさを実感した3年間であった。中でもこの職場体験に向けたキャリア教育の実践は、学年主任の私一人が思いを持ってできるものではなく、学年の教員団が子どもの実態を見据え、入念な計画のもと、どう指導していくか一致したうえで成り立つものであると実感した。また、先代の先生方が築き上げた財産があるからこそ、こうして工夫・改善できるものでもあるし、学校を支える現地スタッフや現地コーディネーターの存在も大きいと感じた。

日本から離れた異国の地での総合的な学習の時間などの教科外指導は困難なことも多いが、各国それぞれの実態を生かした特色ある魅力的な教育がなされていることを学んだ。

この総合的な学習の時間で培われた子どもたちの態度や資質が、これから待ち受ける受験や職業選択する上での基礎的な力になることを切に願っている。